

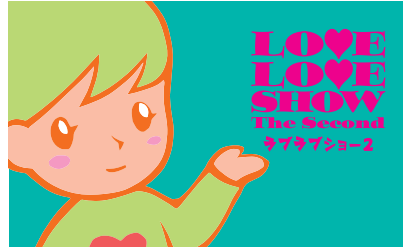
企画展

ラブラブショー 2

4月28日(金) - 7月2日(日)

観覧料：一般1,300 (1,100) 円 高大生800 (600) 円 小中学生無料

アーティストとアーティスト、作品と作品が出会い、そして作品と個性的な空間が出会う。そこに生まれた、「いま」、「ここ」でしか体感できない作品を楽しむ美術展。「出逢いは愛」・・・、さあ美術館でレッツ・ラブ！



イメージキャラクター：アモリーノちゃん

遥かなるルネサンス

天正遣欧少年使節がたどったイタリア

7月28日(金) - 9月10日(日)

今から約430年前、日本の4人の少年が宣教師アレッシェンドロ・ヴァリニャーノに連れられ、長崎から旅立ち、イタリアを訪れた。「天正遣欧少年使節」として知られる彼らは、ローマやヴェネツィアなど、イタリアの諸都市を訪れ、宮殿や教会で、ルネサンスの円熟した文化に接した。本展では、この4人の日本人の若者の目を通して、16世紀後半のイタリアにおけるルネサンスの豊穡なる美の世界を探求する。



1. ブロンズイーノ (アーニョロ・ディ・コジモ・トーリ) 《ピア・デ・メディチの肖像》1542年頃 油彩、板 64×48 ウフィツ美術館 ©Gabinetto Fotografico delle Gallerie degli Uffizi  
2. ドメニコ・ティントレット 《伊東マンシヨの肖像》1585年 油彩、カンヴァス 54×43 トリヴルツィオ財団

夢に挑む 洋画をめぐる画家たちの冒険

～明治・大正・昭和 日本と青森の近代洋画史～

9月23日(土) - 11月5日(日)

西洋文明の歴史と伝統に深く根ざした技法に挑んだ作家たちによって、日本と青森の洋画はどのように築かれていったのか。茨城県近代美術館、栃木県立美術館のコレクションによる日本近代洋画の充実した作品群とともに、青森県内の美術館・博物館等が所蔵する郷土作家たちの貴重な作品を集め、100点を超える充実した展示で、一世紀以上に及ぶ画家たちの夢と冒険の軌跡を紹介する。日本の洋画の原点ともいえるフランス近代洋画4点も特別展示。

マルク・シャガール 三次元の世界

2018年3月10日(土) - 5月6日(日)

マルク・シャガールの三次元の作品世界を紹介する日本で初めての展覧会。戦後のシャガールは陶磁器や彫刻なども手がけている。本展では画家の初期の絵画作品から三次元的な制作への関心をたどり、後期の彫刻や陶磁器など、あまり知られていない立体的な作品群を紹介する。

コレクション展

コレクション展 2017 - 1

ラブラブショー 2関連企画

DIALOGUES ダイアローグズ - 作家たちの対話から  
3月11日(土) - 7月2日(日)

春の企画展「ラブラブショー 2」にちなみ、2人の作家の組み合わせで展示を構成し、作家同士の対話から浮かび上がるものをさぐります。また、棟方志功展示室は昨年度から寄託を受けた、棟方の著名なコレクターである「小林コレクション」を特集して展示します。

コレクション展 2017 - 2

7月8日(土) - 9月10日(日)

コレクション展 2017 - 3

9月16日(土) - 12月10日(日)

コレクション展 2017 - 4

12月16日(土) - 2018年3月4日(日)

マルク・シャガール作「アレコ」  
全4作品完全展示

マルク・シャガールによるバレエ「アレコ」の舞台背景画。青森県立美術館が所蔵する3作品と、フィラデルフィア美術館(米国)所蔵の第3幕「ある夏の午後後の麦畑」が、「青森県立美術館開館記念展 シャガール『アレコ』とアメリカ亡命時代」展(2006年)以来11年ぶりに全4作品が勢揃いします。

展示期間：2017年4月25日(火) - 2021年3月(予定)

パフォーミングアーツ

アレコホール定期演奏会2017「Incontro」

— I — 7月15日(土) — II — 9月30日(土)

アレコホールを会場として、三上亮(ヴァイオリン)、佐藤慎悟(ピアノ)による演奏会を開催。当日演奏されるヴァイオリンは、1628年にニコロ・アマティの手により製作された貴重な一丁。

映画上映会

国内の作品を中心に魅力的な映画作品の上映会をシアターを会場に開催する。

「特集・たむらまさきの眼(マナグ)」

10月6日(金) - 9日(月・祝)

本県弘前市出身の映画カメラマン・たむらまさきの撮影・監督作品を特集。

「特集・溝口健二」

10月20日(金) - 22日(日)

世界の映画人から今もなお深い敬愛を受ける日本を代表する映画監督・溝口健二の作品を特集。

秋のおはなし美術館(仮称)

11月3日(金・祝)、4日(土)

シアターを主会場に、県内の読み聞かせ・昔語り団体が一堂に会し、絵本の読み聞かせや昔話りの公演を行う。

演劇公演「津軽の女」(仮称)

12月8日(金)、9日(土)

美術館「演劇部」による、太宰治の作品「燈籠」、「きりぎりす」を原作としたオリジナル演劇公演を開催。

ダンス公演「アレコ2018」(仮称)

2018年2月2日(金)、3日(土)

アレコホールを会場として、県内外のダンサーと北海道・北東北の一輪車クラブ、演奏家等により表現される新たな「アレコ」の公演を開催。